・戦後GHQによってGEが導入された。

 →なぜLEではなくてGEなのか？

 松井：大学職員からみた教養教育改革

「（中略）ここでは、教養教育は、一般教育・専門教育・職業教育から成り、（後略）」⇒これはLAではないか？この段階からLEとGEが同一視されているのではないだろうか？

→同一視されていることで何か不都合（PP）が起きていないか？

→この時（第一次米国教育使節団報告書）勧告ではGEは名称だけ導入され、内容は規定されていなかった。

高等教育　日本の自由主義思潮は、第一次世界大戦に続く数年の問に、主として大学専門学校教育を受けた男女によって形成された。高等教育は今や再び自由思想の果敢な探究、および国民のための希望ある行動の、模範を示すべき機会に恵まれている。これらの諸目的を果すために、高等教育は少数者の特権ではなく、多数者のための機会とならなくてはならぬ。

高等程度の学校における自由主義教育の機会を増大するためには、大学に進む予科学校(高等学校)や専門学校のカリキュラムを相当程度自由主義化し、以て一般的専門教育を、もっと広範囲の人々が受けられるようにすることが望ましいであろう。このことは、あるいは大学における研究を、あるいはまた現在専門学校で与えられるような半職業的水準の専門的訓練を、彼等に受けさせることとなるが、しかしそれは、より広範囲の文化的および社会的重要性を持つ訓練によって一そう充実することとなるであろう。

（文部科学省, 米国教育使節団報告）（2013/6/12取得）

<http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317998.htm>

日本では「GEはLEに含まれるもの」ではなく、「GEとLEは並びたつもの」として捉えられている。→そのためGEとLEが同一視されているのでは？（「GEとLEを切り離してバランス」を取ると捉えてしまったのが問題なのでは？本来なら「GEがLEの一要素である」と捉えなければいけなかったのではないか？）

⇒「（91年に大綱化によって）大学が多様化された際に、（大学を教育機関としてみなすのであれば）何の基準も設けなかった（ため教養教育が軽視された）のが問題だったのではないか」と言われているが、それより前にそもそも第一次米国教育使節団報告書ですでにGEとLEの同一視が始まっていたのが問題である。

* 「専門に進むため」としての大学機能は、大衆化によって機能しなくなっている。そのためさらに前の「基礎能力を身につける」という大学機能に変わっている（？）。

・答申においては一度も「専門につなげるための教養」であるということは言われたことがない（？）。（専門を学ぶことも大事だけど、教養も大事だよ　は言われているが、その接続に関しては言及がない？）

調べること

* ICU、東大ではGEがLEの一要素として捉えられているのか確認。
* アメリカのLEを謳っている大学ではGEがLEの一要素として捉えられているのか確認。

疑問としてあがったもの

* 日本でLEはいつから言われてきたのか？なぜ言われだしたのか？
* 教養教育を受けているのに教養が身についていないと言えるのか？
* 教養が専門に繋がってない（教養が教養に留まっている）と言えるのか？

宿題

* 各自それぞれ論を考えてくる。
* （担当になっていた本を読んでくる）